

平成26年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成26年6月30日(月)
午後2時～午後4時10分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

議題

(1) 平成26年度協働モデル事業について(市民参加型育苗事業)

- 小田委員から、平成26年度モデル事業の進捗状況を資料により報告。
 - ・ ストーリー性のあるイベントを1年を通して計画。参加者の興味・関心を引き、個々の自発性を高める工夫をしたい。
 - ・ 市民向け勉強会を1月上旬に小学校で実施。都市計画課仲村氏を講師に花の寄せ植え体験を行い、各家庭の玄関に飾ってもらう。
 - ・ 昨年度はまちセンや行政との情報共有が不足したため、式典での装飾で混乱した。今年度は、まちセン、楽笑、行政と常に連絡を取り合って情報共有している。
 - ・ 専用ホームページを開設し、広く市民に情報発信する。
 - ・ モデル事業を進めていく上で、①今後何を目標として実施するのか不透明であることや、②モデル事業から本格的な事業にしていくためにはどうすればよいか今後の課題。
- 委員意見等
 - ・ 行事で終わらせないようにする取組が必要。子どもたちが中学校、高校に進級したときにどう継続させるか。長い目で見た展開が必要。
 - ・ 技術の蓄積をどう残していくのが課題。
 - ・ 写真だけでなく、映像として残すことも子どもたちにいいと思う。「伝説はあなたから始める」と言うと、子どもたちのやる気が違ってくる。ケーブルテレビを活用すると良い。
 - ・ モデル事業とは、1つの事業をやって、その人が事業から下りても残っているものであるべきだと思う。今回のモデル事業が終了したときに、学校行事として継続できるか、花苗を家の中で育ててもらえるかが課題。人への教育は、成果が出るまでスパンが長い。
 - ・ 現段階で将来目標やビジョンが明確になっていなくてもよいと思う。何年かかけて明確にし、協働を考えていくことが重要。
 - ・ 学校に入り込めたのはいいこと。学校側が自立してやってくれるとよい。
 - ・ 今回のモデル事業は、これまでのテーマ型から地域型へ落とし込んでいくのが特徴。

- ・ 花を作ることと市民・地域を巻き込むことの両方を追求してほしい。
- ・ 政策との連携、地域との連携の両方が必要。市として都市緑化を推進する必要がある、今回の展開は今後の可能性を感じる。
- ・ 仲村氏がなくなったときのためにも、花苗の技術の蓄積に取り組んでもらいたい。育苗事業をどう評価するのか、指標作りが必要。
- ・ 楽笑の事業で、「市民参加」と「障がい者雇用」を目指してほしい。
- ・ 行政、楽笑以外に、これから拠点となる場所が必要。
- ・ 専門職をからめて技術、事業を継承する必要がある。
- ・ 各種の団体を巻き込む工夫を。
- ・ 三谷地区で行ったことを蒲郡全体に展開できると良い。今回のモデル事業で試したことや失敗したことを記録してほしい。

- ・ 子ども会との協働もできるのではないか。

○ 結論

- ・ 事業計画に基づき、事業を進める。
- ・ 次回会議で、経過報告と今後の戦略の考えを確認する。

(2) 市民と行政との意見交換の場について

○ 事務局から、6月16日に実施した結果を資料により報告

- ・ 意見交換を通じて、お互いを知るきっかけの場になった。
- ・ 解決策を検討するには、意見交換の場よりも利害関係者が一堂に会した円卓会議の方が向いている。
- ・ 今回参加した職員は初めての経験で得るものが多かったとの感想。市民側にとっても、行政にどのように話したら希望が実現するのかを考えてもらう機会になったと思う。

○ 委員意見等

- ・ 役所が行う意見交換は住民にフィードバックがなされていないように思う。
- ・ 今回は双方の意識変革を行うことを目的とした。フィードバックを考えるならばテーマを絞り込むことが必要。
- ・ 地域住民の中に、行政に言ってもムダという意見が根強く残っている。そういう風潮をいかに打破するか。
- ・ 行政側に協働を根付かせるにはどうしたらよいかの検証を。
- ・ 行政が住民に意見を聞こうとするときは、全てを受け止めなければならないと誤ってしまい、かえって意見を聞かなくなってしまう。全てを取り入れるのではなく、何を減らすのか考えるためにも意見を聞くべき。
- ・ マニュアルでは解決できないものがある。計画ができる前に住民の意見を聞く必要。

- ・ バリアフリーは障がい者だけの問題ではない。ユニバーサルデザインの考え方も必要。行政も技術職だけではなく、事務職も参加すべき。
- ・ あらかじめ参加者にこれまでの取組・事例を映像で見てもらってから参加してもらおうと、意見が活発になる。

○ 結論

- ・ 意見交換の場は、行政、住民の顔合わせの機会や円卓会議を行う導入として意味を持つものである。
- ・ 今後意見交換を実施する際は、進め方を工夫した上で、会議に諮る。

その他

助成金採択事業について（説明）

- 事務局から、これまでに採択された助成金事業について資料により説明
 - ・ 助成金事業の出口を模索するため、観光協会と打合せ会を行っている。
 - ・ 環境保全分野の助成金事業が増えているため、今後環境清掃課と打ち合わせができたかと考えている。
 - ・ 市民がやる気に満ちているまち、市民のエネルギーを政策につなげるまちにしていくために、助成金が使われるようにしたい。そのためには、いろいろな人たちが関われるようにする仕組みやハードルを低くする仕組みを検討していきたい。
 - ・ 次年度で10年目を迎える。
- 次回以降の会議で、助成金事業について議題にする。

次回会議は9月下旬を予定。後日事務局から日程調整を行う。

会議欠席者 山本久代委員、鈴木将浩委員